

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-338836

(43)Date of publication of application : 28.11.2003

(51)Int.Cl.

H04L 12/56

(21)Application number : 2003-069654

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD  
COMMUNICATION RESEARCH LABORATORY

(22)Date of filing : 14.03.2003

(72)Inventor : KAWAKAMI TETSUYA  
SUZUKI YOSHIHIRO  
OGAWA HIROTSUGU  
OKAMOTO EIJI

(30)Priority

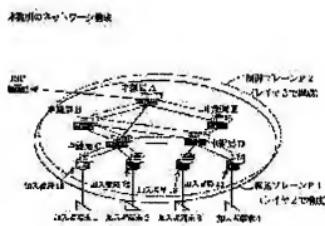
Priority number : 2002070306 Priority date : 14.03.2002 Priority country : JP

## (54) ACCESS NETWORK SYSTEM AND ROUTE CONTROLLER

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To switch a route at high speed in inexpensive configuration on an IP network.

**SOLUTION:** Subscriber stations 11-14 and repeater stations A-E transfer subscriber data transmitted-received by subscriber terminals 1-4 via a VLAN by setting the VLAN by performing VLAN tagging to a transfer packet such that one VLAN becomes a line in a transfer plane P1 using a layer lower than a layer 3 in an OSI model. A network control block CU changes setting of the VLAN in accordance with traffic information collected from the subscriber stations and the repeater stations in a control plane P2 using the layer 3.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 09.11.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-338836

(P2003-338836A)

(43)公開日 平成15年11月28日 (2003.11.28)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>  
H 0 4 L 12/56識別記号  
1 0 0  
4 0 0F I  
H 0 4 L 12/56テ-マ-1\*(参考)  
1 0 0 Z 5 K 0 3 0  
4 0 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数 8 O.L. (全 12 頁)	
(21)出願番号 特願2003-69654(P2003-69654)	(71)出願人 000005821 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
(22)出願日 平成15年3月14日 (2003.3.14)	(71)出願人 301022471 独立行政法人通信総合研究所 東京都小金井市貫井北町4-2-1
(31)優先権主張番号 特願2002-70306(P2002-70306)	(72)発明者 川上 哲也 神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1 号 パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社内
(32)優先日 平成14年3月14日 (2002.3.14)	(74)代理人 100093067 弁理士 二瓶 正教
(33)優先権主張国 日本 (JP)	

最終頁に続く

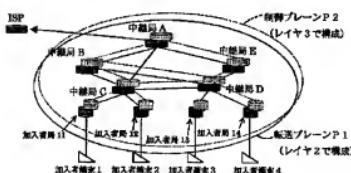
## (54)【発明の名称】 アクセスネットワークシステム及び経路制御装置

## (57)【要約】

【課題】 IPネットワークにおいて安価な構成で高速に経路を切り替える。

【解決手段】 加入者局11～14、中継局A～Eは、OSIモデルにおけるレイヤ3より下のレイヤを用いた転送ブレーンP1で1つのVLANがラインになるよう転送パケットにVLANタギングしてVLANを設定し、VLANを介して加入者端末1～4の送受信する加入者データを転送する。ネットワーク管理ブロックCUはレイヤ3を用いた制御ブレーンP2で加入者局、中継局から収集したトラフィック情報に応じてVLANの設定を変更する。

## 本発明のネットワーク構成



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 加入者端末が接続される複数の加入者装置と、前記加入者装置間を中継する複数の中継装置と、ネットワーク全体のトラフィック情報を前記加入者装置及び前記中継装置から収集して集中管理するネットワーク管理手段とを備え、前記加入者装置及び前記中継装置はそれぞれ、1つのVLANがラインになるように転送パケットにVLANタギングしてVLANを設定し、前記VLANを介して前記加入者端末の送受信する加入者データを転送し、前記ネットワーク管理手段は、前記加入者装置及び前記中継装置から収集した前記トラフィック情報を応じて前記VLANの設定を変更するようにしたアクセスネットワークシステム。

【請求項2】 前記ネットワーク管理手段は、前記加入者装置及び前記中継装置から収集した前記ネットワーク全体の前記トラフィック情報に基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断し、必要と判断した場合に前記加入者装置に対して前記VLANの設定変更を指示するようにした請求項1に記載のアクセスネットワークシステム。

【請求項3】 前記複数の中継装置の各々は、自装置の各リンク状態に基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断し、必要と判断した場合に経路切り替えを前記ネットワーク管理手段に要求し、前記ネットワーク管理手段は、前記経路切り替え要求を受けた場合に前記ネットワーク全体の前記トラフィック情報を応じて前記加入者装置に対して前記VLANの設定変更を指示するようにした請求項1に記載のアクセスネットワークシステム。

【請求項4】 前記複数の中継装置の各々は、レイヤ2の各受信ポートにおける受信パケットエラー率に基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断するようにした請求項3に記載のアクセスネットワークシステム。

【請求項5】 前記加入者装置及び前記中継装置は、加入者データをVLAN経路上にOSIモデルにおけるレイヤ3より下のレイヤを用いた転送ブレーンで転送し、前記ネットワーク管理手段は、ネットワーク管理用の制御情報を前記レイヤ3を用いた制御ブレーンで伝送するよう構成された請求項1から4のいずれか1つに記載のアクセスネットワークシステム。

【請求項6】 前記制御ブレーンを流れる制御データ経路は、レイヤ3の経路制御プロトコルにより分散制御されるものである請求項5に記載のアクセスネットワークシステム。

【請求項7】 加入者端末が接続される複数の加入者装置と、前記加入者装置間を中継する複数の中継装置と、ネットワーク全体のトラフィック情報を前記加入者装置

及び前記中継装置から収集して集中管理するネットワーク管理手段とを備えたアクセスネットワークシステムにおける前記加入者装置及び前記中継装置の経路制御装置であって、

前記加入者端末の送受信する加入者データを転送するための経路として、前記各中継装置の2ポートを1組としてVLANがネットワーク上でラインとなるように設定する経路設定手段と、

前記経路設定手段により設定される経路を1つの経路として識別するための識別子として、VLANタグに含まれるVIDと加入者端末のマッピングを管理するVID管理手段と、

加入者端末が接続される加入者装置においてVLANタグを付加するVLANタグ付加手段と、有する経路制御装置。

【請求項8】 前記VID管理手段は、1加入者端末に複数のVLAN経路をマッピングしておき、

前記VLANタグ付加手段は、前記ネットワーク管理手段により経路変更を指示された場合に、VIDを変更することで経路変更を行うよう構成された請求項7に記載の経路制御装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、加入者端末が接続される複数の加入者装置と、加入者装置間を中継する複数の中継装置から構成されるアクセスネットワークシステム及び経路制御装置に関し、特に広帯域ミリ波無線により中継を行うアクセシシステムに好適なアクセスネットワークシステム及び経路制御装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般的に、IPネットワークでは転送されるデータの経路はIPルータが制御する。IPルータはIPパケットの宛先IPアドレスにより、そのパケットを中継すべき次段のIPルータを決定する。加入者とISP(インターネット・サービス・プロバイダ)を接続するようなアクセスネットワークでは、加入者からのパケットは、宛先IPアドレスとして、例えば同じポートサイトのホストのIPアドレスを示している場合もある。しかし、各加入者はそれぞれのISPと契約を行っているため、加入者端末のパケットは契約しているISP網を通過する必要がある。このため、加入者端末からのパケットは、その宛先IPアドレスに関わらずその加入者の属するISPに送信する必要がある。

【0003】 このため現在は、図10、図11に示すように加入者のパケットをアクセス網内のプライベートIPネットワークをトンネルさせることでISP網まで転送しており、加入者端末のパケットを当該ISPが接続されるルータのIPを示すプライベートIPでカプセル化することで、アクセス網内のIPルータによりISPへ送信している(例えば下記の非特許文献1、非特許文

文献2参照)。

【0004】

【非特許文献1】

IP in IP Tunneling

RFC1853

<http://www.ietf.org/rfc/rfc1853.txt>

【非特許文献2】

IP Encapsulation within IP

RFC2003

<http://www.ietf.org/rfc/rfc2003.txt>

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記方法に関して、IPカプセル化を用いる方法では、転送するユーザデータをすべてIPカプセル化する必要があるため、加入者収容部分での処理の負荷が重く、高速なソフトウェア処理を必要とする。また、広域域ミリ波無線により中継を行うアクセスシステムでは、ミリ波無線特有の障害として、降雨による「通信経路断」があげられる。このため有線ネットワークにおいて物理リンクの二重化により障害リンクを切り替えるような障害回復手法をミリ波無線に適用して、無線リンクを物理的に二重化しても降雨による無線リンク状態が改善されるわけではなく、有効ではない。このため障害経路を迂回するような経路変更が必須となる。

【0006】しかし、IPカプセル化を用いる方法では、ユーザデータの経路はアクセス網内のIPルーティングに従うため、障害発生時の経路切り替えには経路制御プロトコルによる新しい経路の収束を待たねばならず、経路切り替えに数10秒単位の時間を要するという課題がある。

【0007】本発明は上記従来例の問題点に鑑み、安価な構成で高速に経路を切り替えることができるアクセスネットワークシステム及び経路制御装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の発明は上記目的を達成するために、加入者端末が接続される複数の加入者装置と、前記加入者装置間を中継する複数の中継装置と、ネットワーク全体のトラフィック情報を前記加入者装置及び前記中継装置から収集して集中管理するネットワーク管理手段とを備え、前記加入者装置及び前記中継装置はそれぞれ、1つのVLANがラインになるように転送パケットをVLANタギングしてVLANを設定し、前記VLANを介して前記加入者端末の送受信する加入者データを転送し、前記ネットワーク管理手段は、前記加入者装置及び前記中継装置から収集した前記トラフィック情報を応じて前記VLANの設定を変更するようにしたことを特徴とする。この構成により、加入者装置及び中継装置として安価で高速なLAN機器を用いて経路制御可能なネットワークを構成することが可

能となる。

【0009】請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のアクセネットワークシステムにおいて、前記ネットワーク管理手段が、前記加入者装置及び前記中継装置から収集した前記ネットワーク全体の前記トラフィック情報を基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断し、必要と判断した場合に前記ネットワーク全体の前記トラフィック情報を応じて前記加入者装置に対して前記VLANの設定変更を指示するようにした。この構成により、ネットワーク管理手段によりネットワーク全体の情報に基づいて経路変更が可能になるため、ネットワーク全体のトラフィックエンジニアリングが可能となる。

【0010】請求項3に記載の発明は、請求項1に記載のアクセネットワークシステムにおいて、前記複数の中継装置の各々が、自装置の各リンク状態に基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断し、必要と判断した場合に経路切り替えを前記ネットワーク管理手段に要求し、前記ネットワーク管理手段が、前記経路切り替え要求を受けた場合に前記ネットワーク全体の前記トラフィック情報を応じて前記加入者装置に対して前記VLANの設定変更を指示するようにした。この構成により、経路変更判断処理を各中継装置に分散することができ、より細かな周期で多くの情報を用いて経路変更判断を実行することができる。

【0011】請求項4に記載の発明は、請求項3に記載のアクセネットワークシステムにおいて、前記複数の中継装置の各々が、レイヤ2の各受信ポートにおける受信パケットエラー率に基づいて経路を切り替える必要があるか否かを判断するようにした。この構成により、実際にリンクにデータが流れている場合のみ経路変更を実行することが可能となり、経路変更の頻度を減らすことができる。

【0012】請求項5に記載の発明は、請求項1から4のいずれか1つに記載のアクセネットワークシステムにおいて、前記加入者装置及び前記中継装置が、加入者データをVLAN経路上をOSIモデルにおけるレイヤ3より下のレイヤ用いた転送フレームで転送し、前記ネットワーク管理手段が、ネットワーク管理用の制御情報を前記レイヤ3を用いた制御フレームで伝送することを特徴とする。この構成により、加入者データを高速なEthernet(R)スイッチで転送しながらも、制御情報は別ネットワークとして異なる制御と転送方法を用いて構成することができる。

【0013】請求項6に記載の発明は、請求項5に記載のアクセネットワークシステムにおいて、前記制御フレームを流れる制御データ経路が、レイヤ3の経路制御プロトコルにより分散制御されることを特徴とする。この構成により、加入者データ経路を制御するための制御情報に関する経路制御を自律分散的に実行することができるため、信頼性の高いネットワークを構築でき

る。

【0014】請求項7に記載の発明は、加入者端末が接続される複数の加入者装置と、前記加入者装置間を中継する複数の中継装置と、ネットワーク全体のトラフィック情報を前記加入者装置及び前記中継装置から収集して集中管理するネットワーク管理手段とを備えたアクセスネットワークシステムにおける前記加入者装置及び前記中継装置の経路制御装置であって、前記加入者端末の送受信する加入者データを転送するための経路として、前記各中継装置の2ポートを1組としてVLANがネットワーク上でラインとなるように設定する経路設定手段と、前記経路設定手段により設定される経路を1つの経路として識別するための識別子として、VLANタグに含まれるVIDと加入者端末のマッピングを管理するVID管理手段と、加入者端末が接続される加入者装置においてVLANタグを付加するVLANタグ付加手段と、有することを特徴とする。この構成により、VIDの設定を行うのみで加入者別の経路制御を行うことが可能となる。

【0015】請求項8に記載の発明は、請求項7に記載の経路制御装置において、前記VID管理手段が、1加入者端末に複数のVLAN経路をマッピングしておき、前記VLANタグ付加手段が、前記ネットワーク管理手段により経路変更を指示された場合に、VIDを変更することで経路変更を行うことを特徴とする。この構成により、高速な経路変更が可能となる。

【0016】

【発明の実施の形態】<実施の形態1>以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図1は本発明の実施の形態1にかかるネットワーク構成を示した図である。本発明の物理ネットワークは加入者端末1~4をそれぞれ収容する加入者局11~14と、加入者局11~14間のパケットの中継を行う中継局A~Eがミリ波無線により接続される構成となる。加入者局11~14には加入者端末1~4が接続され、ある中継局AはISPと接続される。

【0017】また図1に示すように、本発明の論理ネットワークは大きく2つのブレーンから構成される。1つは加入者端末1~4間のパケットを転送し、また、外部ネットワークとのパケットの送受信を行なう転送ブレーンP1であり、もう1つがアクセス網内で閉じてネットワーク情報の収集を行い、加入者端末1~4の経路設定を実行する制御ブレーンP2である。

【0018】図2(a)は転送ブレーンP1のプロトコルスタックを示し、転送ブレーンP1はOSIモデルにおけるレイヤ2(データリンク層)ネットワークで構成されている。通常、データリンク層ネットワークでは、物理ネットワークを共有するホストで、ブロードキャストドメインを共有することになるが、加入者別にIEEE802.1Qで規定されるVLAN(virtual LAN)を構成

し、ブロードキャストドメインを完全に分離した上で、さらにこのネットワークを1本の経路となるように各中継局A~Eに設定する。これにより、レイヤ2のみで論理的にユーザを分離した上で、物理的にデータを多重した転送を可能としている。このようなVLANにより形成される経路(以下、VLAN経路)は、VLANタグにより論理的に多重された形態をとっている。

【0019】一方、図2(b)は制御ブレーンP2のプロトコルスタックを示し、制御ブレーンP2はOSIモデルにおけるレイヤ3(ネットワーク層)で構成されており、アクセス網内部に閉じたIP網を構成し、通常のIPルーティングにより各中継局A~E、加入者局11~14間の制御情報の伝達を実行する。この制御ブレーンP2により各中継局A~E、加入者局11~14の設定情報、状態を収集し、必要に応じて転送ブレーンP1の経路の変更を実行する。

【0020】図3は本発明における中継装置の構成例であるパケット転送装置を示した図である。中継装置(パケット転送装置)は、無線の送受信を行なう無線処理部21と、加入者データを転送するためにVLANタグに対応したEthernet(R)パケットのスイッチが可能なL2処理部22と、制御情報をやり取りするためのIPの経路制御及び、IPアドレスによる制御データの転送を行い、設定変更などの処理を行なうL3処理部23より構成される。

【0021】L2処理部22は詳しくは、パケットの送受信を実行するL2パケット転送処理部22aと、L2処理部22のVLANタグの設定、管理を実行するL2転送管理部22bより構成される。またL3処理部23は詳しくは、制御パケットの送受信を実行するL3パケット転送処理部23aと、制御パケットの経路を通知、設定する経路制御処理部23bと、さらに外部のネットワーク管理ブロックCU(Control Unit: 図4、図5参照)と装置情報をやり取りし、加入者データ経路の設定変更を実行する装置管理部23cから構成される。また、このL2処理部22とL3処理部23は、L2パケット転送処理部22aの1つのポートPnを用いて、VLANタグにより制御ネットワークを論理多重した形で接続される。

【0022】中継スイッチを用いてアクセスネットワークを構成した場合の例を図4、図5に示す。図4、図5では、加入者端末PC1~PC6がそれぞれ接続される加入者無線局SW-1~SW-6の6台と、加入者無線局SW-1~SW-6間のパケットを中継する中継スイッチとして機能する中継無線局SW-A~SW-Eの5台でネットワークを構成して、加入者端末PC1~PC6間が接続される。またいすれかの中継無線局SW-Aには網全体のデータ経路を管理するネットワーク管理ブロックCUが接続される。

【0023】図4は、加入者端末PC1のユーザデータ

経路の設定例を示すブロック図である。本発明では、加入者端末PCの経路はVLANタグを各中継無線局SW～A～SW～Eのポートに設定することで規定される。通常Ethernet (R) におけるVLANは、ブロードキャストドメインを分離し、同じ物理ネットワークに複数の論理ネットワークを構成するために使用されるが、本発明ではさらに1つのスイッチに対して、あるVLANタグに対応するポートを2つに限定し、VLANタグによって示されるネットワークが1つの経路（ライン）となるように設定することが特徴である。図4の例では、加入者端末PC1に対して3つの異なる経路に3つの異なるVLANタグ（VID=1～3）をマッピングしている。このように転送ブレーンP1におけるVIDは加入者端末PCの1つの経路を示すことになり、この経路が1つのネットワークを示す。

【0024】また、転送ブレーンP1はデータリンク層（L2）により加入者端末PC1～PC6とISPを接続するため、この上を流れるネットワーク層プロトコルと完全に分離された形で制御されている。このため、ネットワーク層（L3）のプロトコルに依存しない経路を構成することが可能であり、加入者がISPを変更するなどの変化があった場合でも、アクセス網の経路に変更を行う必要はない。

【0025】中継無線局SW～Dを例にとると、図6に示すようにVID=1はポートP1とP6に設定し、VID=2はポートP1とP5に設定し、VID=3はポートP1とP4に設定する。VID=1の経路に関しては、同様の設定を加入者無線局SW-1、中継無線局SW-B、SW-Aに対しても行い、VID=1の経路として、SW-1 (P1, P2) - SW-D (P1, P6) - SW-B (P1, P4) - SW-A (P4, P2) が設定される。

【0026】また、この3つの経路の選択、切替に関しては加入者端末PC1にVLANタグを意識させることのないように、加入者局である加入者無線局SW-1により制御が行われる。このため加入者無線局SW-1は加入者端末PC1の接続されたポートと、中継無線局SW～Dへの接続ポートで使用するVLANタグとのマッピング設定を保持し、該当VLANタグの付与、削除を実行する。このような各装置へのVIDの設定及びマッピングの設定は、データ経路管理部として動作するネットワーク管理ブロックCUにより集中管理され、SNMP (Simple Network Management Protocol) により制御情報として各無線局SWに設定される。このように、本発明では加入者端末PC1～PC6のデータ経路に関してネットワーク管理ブロックCUによる集中管理を行い、制御・設定を実行する形態となる。こうすることで、加入者データは、ネットワーク管理ブロックCUからの設定完了後は、L2処理部22による転送処理のみで動作可能となる。

【0027】図5は制御パケットの転送のためのネットワーク設定を示すブロック図である。制御パケットに関してはL3処理部23が転送処理を実行する。このため各スイッチSW間がそれぞれ異なるネットワークアドレスを持つ、異なるネットワークとして識別されるように設定する必要がある。図では各スイッチ間のそれぞれのリンクが1つのネットワークアドレスを持ち、スイッチSWはルータとして動作することになる。

【0028】中継無線局SW～Dを例にとると、中継無線局SW～Dの各ポートがそれぞれ異なるネットワークNW-3、NW-4、NW-5、NW-6、NW-7、NW-13として動作する。このためVLANのVIDは、転送ブレーンP1では加入者データの経路を示すために、加入者端末PCにマッピングしていたのとは異なり、それぞれのネットワークNW、すなわちリンクに対してマッピングされることになる。

【0029】中継無線局SW～Dの設定例を図7、及び図8を用いて説明する。図7は中継無線局SW～DのL2処理部22への設定例を示す。L2処理部22では加入者のデータ経路の設定と同様に、VIDと使用するポートアドレスが設定される。ここで加入者のデータ経路の設定と異なるのが、接続されるポートの1つが必ずしもL3処理部23への接続ポートであるPortmになる部分である。このような設定により、中継無線局SWの各ポートをVLANという形で論理多重してL3処理部23へ認識させている。

【0030】図8は中継無線局SW～DのL3処理部23への設定例を示す。L3処理部23は中継無線局SWの各ポートをネットワークとして識別するので、各ポートを示すVIDとそのポートに割り当られるネットワークNWのIPアドレスがマッピングされ、設定される。このように、L2処理部22に対してはユーザデータ、制御データに関する設定が同一であるため、L2処理部22では、データの種類を意識することなく転送処理を実行した結果、ユーザデータと制御データを分離することができる。

【0031】分離された制御データに関しては、すべてL3処理部23へ転送される。L3処理部23では、IPアドレスを用いて通常のIPルータと同様の処理を実行する。宛先IPアドレスが自IPアドレスでない場合、内部に保持する経路制御テーブルに従って次の転送先を検索し、パケットの転送を実行する。経路制御処理部23bでは、RIP (Routing Information Protocol) やOSPF (Open Shortest Path First) のような一般的な経路制御プロトコルを用いて、制御データを転送するネットワークの経路情報を交換し、経路制御テーブルを構成する。宛先IPアドレスが自IPアドレスである場合、パケットを受信し処理を実行する。受信したパケットがL3経路制御プロトコルのパケットであれば50 経路制御処理部23bが、またSNMPであれば装置管

理部23cが処理を実行する。

【0032】次に、経路変更手順について図9を用いて説明する。図9はタイムにより起動される制御情報のやり取りとその内容に従って経路を変更する手順を示したものである。本実施の形態では、CUIが各スイッチSWに対してSNMPを用いて情報収集を実行し、ユーザデータ経路変更の必要性を判断する(ステップS1)。例えば無線リンク障害により、使用不能な経路が発生した場合、この経路を通るVIDを使用するユーザについて、経路を変更する必要がある。実施の形態1では、リンク障害による切替を示しているが、本発明では、経路変更の判断材料に関しては特に障害である必要はなく、トライフィックの量により判断してもよく、これを限定するものではない。

【0033】あるユーザのデータ経路の変更が必要である場合、CUIは該当経路を使用する加入者を検索(ステップS2)、次いで該当ユーザ端末PCが接続されている加入者エッジスイッチあてに、使用するVIDの値を記した制御情報をSNMPを用いて設定する(ステップS3)。この制御情報を受信した加入者局では、L3処理部23の装置管理部23cにより処理が行われ、L2処理部22のL2転送管理部22bに対し、加入者端末とVIDのマッピングの設定を実行させる(ステップS4)。L2転送管理部22bでの加入者端末とVIDのマッピングが完了した段階で、加入者端末のパケットには新たなVIDが付与されることになり、このVIDの示すVLAN経路を通じてパケットの伝送が行われるようになる。本発明では、この加入者局への加入者端末とVIDのマッピング設定変更のによってユーザの経路を切り替えることが可能であり、高速な経路切替を実現している。

【0034】<実施の形態2>実施の形態2では、経路変更手段をネットワーク管理ブロックCUIではなく、個々の中継局A～Eが有する点で実施の形態1と異なる。図12は実施の形態2における経路変更手順を示したものである。図12では実際には複数の中継局A～Eと加入者局1～14が存在するが、図の見やすさを考慮して各々1台のみを記している。各中継局A～Eでは、図3に示したL3処理部23の装置管理部23cにより、周期的に経路変更判断処理を実行する(ステップS11)。この結果、自装置のリンクに障害があると判断した場合、ネットワーク管理ブロックCUIに対して、経路変更要求としてSNMPのTRAPを利用して変更すべきリンクを通知する(ステップS12)。

【0035】この経路変更要求を受信したネットワーク管理ブロックCUIは、この変更すべきリンクを使用する加入者の検索を実行し(ステップS13)、加入者端末(1～4)別に、複数マッピングされているVIDから該当するリンクを経由しない経路を選択する(ステップS14)。その後、各加入者局1～14に対して新

たな経路を示すVIDの値を記した経路情報をSNMPを用いて設定する(ステップS15)。その後の処理(ステップS16)に関しては図9に示す実施の形態1(ステップS4)と同様である。

【0036】次に、実施の形態2における中継局A～Eでの経路変更判断処理を図13のフローチャートを用いて詳しく説明する。実施の形態2は、経路変更判断処理に図3に示したL2処理部22のL2転送管理部22bの情報を用いることが特徴である。L2転送管理部22bではスイッチを管理するための標準的なMIB(Management Information Base)を実装しており、各ポート単位に入出力のパケット数、バイト数、エラー/パケット数などの統計情報を保持している。経路変更判断処理は周期的にL2転送管理部22bより統計情報を取得し(ステップS21)、入力パケット数と入力エラー/パケット数より、受信パケットのエラー率を算出する。受信パケットのエラー率が閾値Xより大きくなると(ステップS22)、リンク障害と判断し、ネットワーク管理ブロックCUIに経路変更要求を送信する(ステップS23)。

【0037】このように実施の形態2では、実際に該当するリンクから受信するエラー/パケットの率によってリンク障害を判断するため、降雨などによる実際の無線リンクレイヤでの比特エラー率に関わらず、エラーによるパケットの廃棄が起きなければ経路変更が起きないとになる。これは、降雨により無線リンクレイヤの比特エラー率が高くなったり場合でも、データが流れていない場合や、スループットが少なく、それほどパケット廃棄の影響を受けない場合などに、無駄な経路変更を実行することを防ぐことになる。

【0038】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、既存のVLAN対応Ethernet(R)スイッチとSNMPを用いて、VLANのブロードキャストドメインを1本のリンクを構成するように設定し、加入者装置での設定のみで経路選択可能な構成にしたため、加入者別の経路制御及び、1加入者の経路変更制御を可能にしながらも安価にシステムを構成することができる。また、経路変更判断手段を各中継装置に設けて、経路変更判断処理において受信パケットのエラー率により経路変更を判断するため、無駄な経路変更を減らす効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1にかかるネットワーク構成を示す説明図

【図2】(a)は、図1のネットワークにおける転送ブレーンのプロトコルスタックを示す説明図

(b)は、図1のネットワークにおける制御ブレーンのプロトコルスタックを示す説明図

【図3】図1の中の中継局及び加入者局を構成する中継装置の構成例であるパケット転送装置を示すブロック図

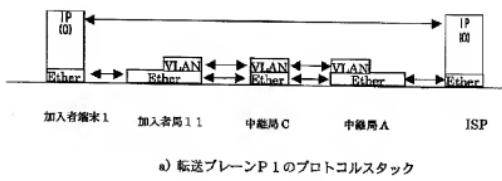
11

【図4】図1のネットワーク上の加入者データ経路を示すブロック図

【図5】図1のネットワーク上の制御情報の経路制御を示すブロック図

【図6】図4中の中継無線局SW-Dのユーザデータ経路の設定例を示す説明図

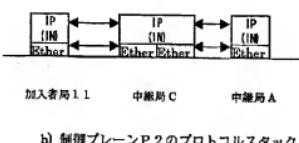
【図2】



【図8】

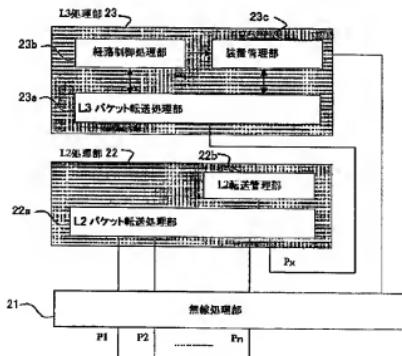
VID	ポート
1003	P6,Pn
1004	P1,Pn
1005	P2,Pn
1006	P3,Pn
1007	P4,Pn
1013	P5,Pn

※Pn は L3 处理部への接続ポート



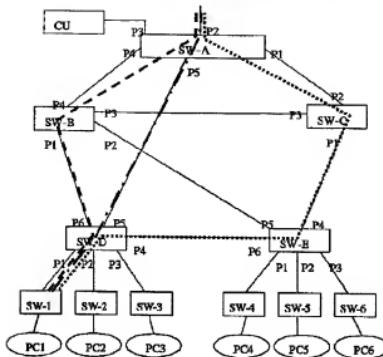
【図3】

本発明のパケット転送装置



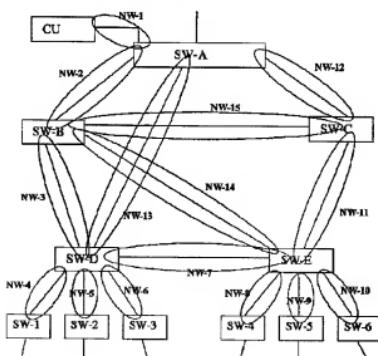
【図4】

本発明のネットワーク上でのユーザデータ経路を示すブロック図



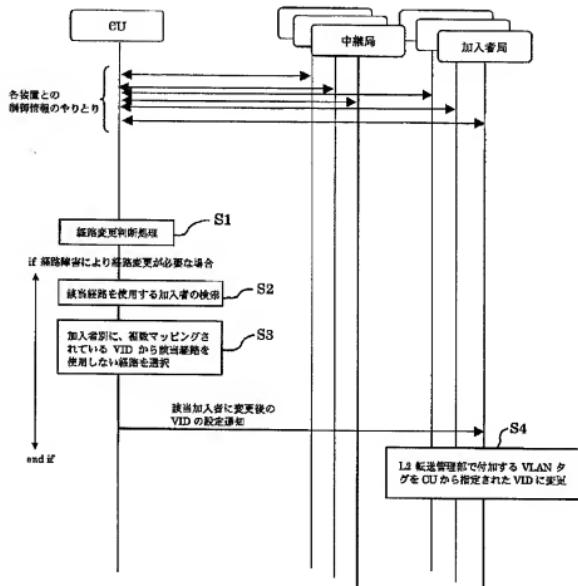
【図5】

本発明のネットワーク上での制御情報経路を示す

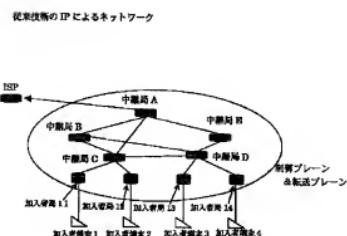


【図9】

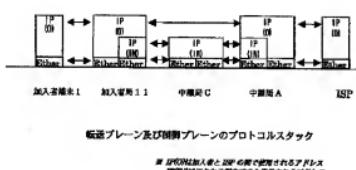
本発明の実施の形態1における経路制御シーケンス



【図10】

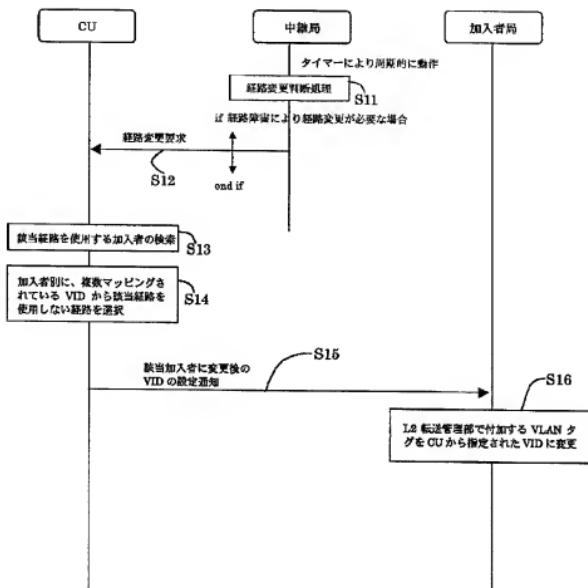


【図11】



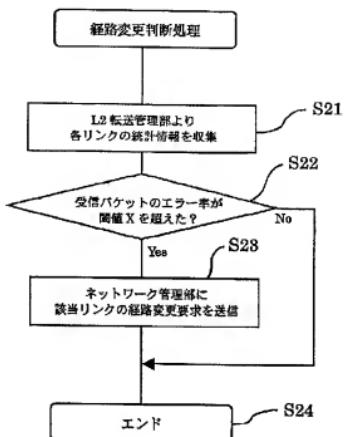
【図12】

#### 本発明の実施の形態2における経路制御シーケンス



【図13】

本発明の実施の形態2における経路変更判断処理のフローチャート



$$\text{受信パケットエラー率} = \frac{\text{受信エラーパケット数}}{\text{受信パケット数}}$$

## フロントページの続き

(72)発明者 鈴木 良宏

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1  
号 パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社内

(72)発明者 小川 博世

東京都小金井市貫井北町4-2-1 独立行政法人通信総合研究所内

(72)発明者 岡本 英二

東京都小金井市貫井北町4-2-1 独立行政法人通信総合研究所内

F ターム(参考) 5K030 GA03 HD03 KA05 LB08 MB05  
MC08 MD07